

長崎グリーンヘルパーの会会報

発行責任者 会長 前川文雄
長崎市戸町 2-6-12



(長崎市東出津町)

遠藤周作文学館屋外整備

7月17日(土) 参加者 峰,田中,久田,片山,中橋,根岸ユ,根岸マ,根岸ア,森

成長したハマボウ、夏の主役に



記念標柱 大きく成長したハマボウ



角力灘を望む傾斜地の草刈り中

活動 ; 草刈り、草取り

約1ヶ月ぶりの活動で、雑草は大きく繁茂していた。雑草の主役は、傾斜地ではイネ科の雑草やヤブマオが多く、アジサイの周辺は、今はマルバツユクサが多いが、季節とともに種類が変わる。

中橋さん、久田さん、田中さんは刈払機により草刈り、後の6人はアジサイ周りの草取りとアジサイの花がら剪定を行なった。

ハマボウが満開のピークは過ぎてはいたが、まだ沢山の黄色い花を付けていた。

ハマボウは、会の10周年記念として平成24年10月に植樹したもので、9年目を迎えている。最初に植えた5株は大きく枝を広げ、毎年7月初旬には見事な花を咲かせている。

(森 俊一)

農業体験

(雲仙市瑞穂町)



7月18日(日) 参加者 (梅澤夫人),片山,細川,中橋,峰,森
 9月04日(土) 参加者 (梅澤夫人),片山,細川,中橋,根岸ユ,
 根岸マ,根岸ア,森
 9月20日(月) 参加者 (梅澤夫人),片山,細川,中橋,峰,根岸ユ,
 根岸マ,根岸ア,森

猛暑のなかの草取り

7/18、活動;草刈り、草取り

6/2のジャガイモ掘り以来の活動だったが、畑全体が草丈50cmくらいの雑草に覆いつくされ唖然とする様だった。5月に植えたキュウリだけは沢山の実を付けていたが、サツマイモは草の中に埋もれていた。

ジャガイモ植付けを9月初旬に予定していて、その場所の整備(草刈り)を優先したため、サツマイモ周辺の草取りはほとんどできなかった。

この日は朝から猛暑で、前日の他の活動との連日作業で、体力の限界を感じた。作物を育てるには、作物毎に季節に応じた管理が必要で、暑い、きつい
 で先延ばしはできない。農家の方のご苦勞を感じている。(森 俊一)



キュウリ大量収穫



7/18 参加者



雑草に覆われたサツマイモの蔓



9/4参加者、梅澤さんご主人も

梅澤さんご主人に久々対面

9/4、活動;草刈り、草取り、剪定

この日は当初の年間計画では、秋ジャガの植付け予定であったが、予定場所がまた雑草に覆われているため、草刈りを優先した。又6月に植付けたサツマイモ周辺の草取りを実施した。

秋ジャガはこれまで9月初旬に植え付けていたが、近年温暖化で収穫期が多少遅くても十分育つようなので、9月20日前後に植え付け延期することにした。

連日の雨続きから、この日は朝から1日快晴で、射すような暑さでだった。30分くらい毎に休憩し、14時頃には切り上げたが、全員グロッキー状態

骨折で、永くりハビリ中だった梅澤さんのご主人が顔をお見せになり一安心、今後も適切なアドバイスお願いします。(森 俊一)

秋ジャガの植え付け完了

9/20、活動;秋ジャガの植え付け、ニンニク植え付け、草刈り

9月初めに予定していたジャガイモの植え付けをおこなった。

耕耘機で掘り返され、平らに整備された(前回の活動で、草刈りした場所)ところに、種芋はつぎの方法で植付けた。

畝巾65cm間隔に棒を立て、鍬で深さ15cmほどの溝を掘り、種芋のジャガイモを約30cm間隔で置いていく。種芋の間には一掴みの堆肥と化成肥料置き、最後に畝の両側から手動式の耕耘機で土を掛ける。畝の高さは30~40cmとなる。

全部で畝長さ約10m、8畝半ほどに赤芋と白芋を植えた。12月中旬には収穫できるだろう?

懸案だったジャガイモ植付けが終わりホットしたところである。

(森 俊一)



ジャガイモ植付けました



9/20 参加者

ハイキング部

郡岳に登る



R3年6月20日(日) 参加者 前川,小林

多数の登山者に遭遇

梅雨の中休みの日曜日、多良岳山系西側に位置する標高 826mの郡岳へ登った。南登山口には車 30 台余りが駐車し、やっと 1 台止めるスペースを確保。登山準備の後、午前 10 時出発。杉林の登山道を進むと途中、下山中の北陽台高校登山部の先生、生徒の一団や多くの登山者とすれ違った。2回の休憩をとり、約1時間 25 分で山頂に到着。山頂にも登山者が 10 名、大村湾、野岳湖、川棚町の虚空蔵山等の山々が一望。景色を眺めながら昼食と休憩をとる。正午に西登山口側へ下山し、展望の良い坊岩へ 10 分で到着。坊岩からは秋に登山が予定されている武留路山が見えた。コースを南登山口へのトラバースコースに変更し下山。午後 1 時 15 分に到着した。途中倒木に生えていたキクラゲをゲットし、2 人で山分け。

本日は約 3 時間半の登山でしたが、久しぶりに前川さんと師弟登山となり、初心に戻りました。

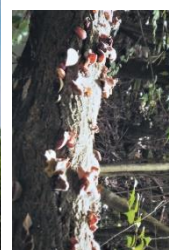
(小林 征雄)



坊岩より、遠くに武留路山



郡岳山頂



倒木に生えたキクラゲ

天門峰に登る

象やワニの形に見える山

R3年7月25日(日) 参加者 前川,根岸,馬場,小林

稲佐山の南方に位置するこの山は、グリーンヘルパーの会でも 2 回ほど登ったことがあり、長崎に入港する「まるで天がつくったようだ」と言う感慨が山名の由来と言われる。山名は「しらと」とか「てんもんほう」と呼ばれるが、西泊中学校の PTA の会報名の「しらと」にもなっている。

9 時 10 分、集合場所の女神大橋戸町側駐車場を出発し橋を渡り、登山口の西泊中学校の正門へ、ここで前川さんから地図と登山道の説明を受けて登山開始。旧日本軍要塞遺構が残る登山道を進むと、標高 139mの障子岩山へ到着。さらに進むと雑草が生い茂る峠木鉢越に着き、ここで 20 分余り登山道の整備を実施。お茶休憩の後、

10 分で標高 166.2mの天門峰へ登りあがる。視界ゼロの山頂から 5 分で展望がひらけ、女神大橋、長崎港、伊王島が見渡せる展望所に着く。お昼となったため、昼食休みをとる。

休憩の後には、本日のメインイベントである「150m 急斜面下り」が待っていた。設置された極太のロープをつかみ、斜面を踏ん張り下山。午後 1 時事故無く無事出発点へ戻り解散。 本日は力の入った登山となりました。

(小林 征雄)



登山道の説明をする前川さん



登山道の整備をする



天門峰山頂

椿プロジェクト

(大村市宮代町)



R3年9月11日(土)
参加者 越田,荒木,細川,根岸,峰,森

活動内容;椿実収穫

小雨模様の日中はっきりしない天気だったが、収穫作業を執行した。この期を逃すと実が割れて落ち、拾い集めるのが大変になる。その点、割れた実は極く少なく絶好のタイミングだった。

蜂避けのネットを頭に被り、電動の高枝切りノコ(?)など最新の道具を用意しての収穫作業。

高い枝先付いた実は、電動ノコで枝毎切り落とし、剪定を兼ね収穫したので効率的だった。

椿実収穫、まざまず・・・

収穫作業は午前中で終わったが、本日収穫した実は、およそ3箱であった。

荒木さんの奥様が、8月に怪我され入院中だとお聞きました。早いご回復をお祈りします。この日は、奥様の農家のお友達が、草刈りの応援に駆けつけていました。

NGH 会員も高齢化していますので、活動中においては、具々も無理をされないようお願いいたします。

(森 俊一)



電動ノコで高枝切断



収穫した実の一部



本日の参加者



野鳥観祭



小林 征雄

オオハクチョウ



オオハクチョウは10月下旬、ロシアから主に北日本や日本海に飛来し、越冬する冬鳥です。

時々、九州でも見られますが、昨年秋から長崎市外海町の神浦川河口で親子4羽が確認されていました。

6月29日 神浦川河口で2羽と、7月7日手熊川で1羽のオオハクチョウを確認しましたが、これらのハクチョウはいずれも越冬後、住みついたものと思われます。

セイタカシギ



セイタカシギは、全長37cm、チドリ目セイタカシギ科に分類される。欧州やアジア南部に生息し、東南アジアやオーストラリアで越冬する。セイタカシギは、名前のおりピンク色をした極端に長い足を持った背の高い鳥で、姿、かたちが美しいことから「水辺の貴婦人」と言われる渡り鳥です。

写真は8月27日、長崎市総合運動公園の調整池に飛来したのを撮影しました。

梅松鶴竹林整備

(長崎市西坂町)



9月5日(日) 参加者 多田,栗山,田中,山本,前川



里山の動物たち

小林 征雄

ニホンアナグマ



アナグマの名がついていますが、イタチ科の動物です。

ミズやコガネムシの幼虫を好んで食べる。北海道以外の低山や里山に生息し、ポピュラーな動物です。

グリーヘルパーの作業現場である梅松鶴の竹林でも二度出会いました。写真は7月2日、神ノ島公園で餌を探しているアナグマと出会い撮影したものです。

ニホンノウサギ

日本固有のウサギで体長 50～76cm 位。主に単独で生活。食性は植物食で主に草を食べます。

低い山や里山等で見かけますが、これまで岩屋山の山腹やあぐりの丘で見かけました。野生の動物のため、すぐ逃げるので一度も写真を撮れませんでした。6月28日、岩屋山の林道でパツタリ出会い、ゆっくりカメラをかまえ撮影に成功しました。



イノシシ



近年イノシシは数が増え、食べ物を求めて山から里山や民家に出没する動物です。

稲佐山では良く出会いますが、8月20日稲佐山公園で、ヤマボウシの実が赤く熟したところを写真に撮っていたところ、地面に落ちたヤマボウシの実を食べに出てきたイノシシと出会い撮影しました。

イノシシは体長1m余りのオスでしたが、人に気づきヤブの中に姿を消しました。

野山の草花

身近な野山で見かける季節の草花、新シリーズとして適宜紹介します。投稿お待ちしております。

カノコユリ (ユリ科 花期 7-9月)



写真提供は小林征雄さん、いずれも長崎市岩屋山登山口から山頂にかけ見かけ撮影

九州、四国の山地の崖などに自生する。全国いくつかの市町で町の花に指定されるが、長崎県では佐世保市と西海市が指定している。

タカサゴユリ (ユリ科、花期 7-9月)



原産地は台湾、繁殖力旺盛で全国各地で見られる。連作障害に弱く、同じ場所で咲き続けると細菌が発生して群生全部が枯れてしまう。一つの花からおよそ1000個できる種は、風に乗せて飛んでいき、野生化した種は落ちた場所で根付き群落をつくる。

ノカンゾウ (ユリ科 ワスレグサ属、花期6-8月)



多年草、日本中の山野によく見られる野草で、土手や川辺から高山まで自生。1日花で、ニッコウキスゲなどと近縁種。蕾、根、葉は薬用として、若芽、若葉は山菜として利用されている。

竹灯籠作り体験

長崎市の今年のエコライフフェスタは、10月23日(土)・24日(日)に開催されます。共同企画(NGH、NPO 環境保全教育研究所、川さるく森川海塾)で竹灯籠作りと展示を行ないます。(中島川公園)

竹灯籠を試作しました

前川 文雄

竹の直径は、8センチで、真竹を使いました。

バリがたくさん出たので、カモフラージュを兼ねて、バーナーで表面を焼きました。

穴の大きさは、4ミリ、6ミリ、8ミリ、12ミリです。デザインした紙を竹に巻き付け、テープで止めて穴をあけました。

灯りは、100均で買ったスプリングライトです。全体に灯りが広がるように、内側に障子紙を丸めて入れました。

竹表皮のバリが出ないように、穴をあけるのがとても難しく、デリケートな作業でした。

竹灯籠作り体験会

R3年9月18日(土) NGH 参加者 前川、小林、田中、根岸ユ

体験会会場;長崎市古道町 観音寺 灯籠作り体験が行なわれました。



試作した竹灯籠